

1 **はいからさんが通る** ‘20年 花組 演出：小柳奈穂子 主演：柚香光、**華優希**。「娘役が輝く」と言ってまず頭に浮かぶのがこの作品。大和和紀原作の少女漫画の舞台化は、タイトル通りおきゃんでハイカラな「花村紅緒」のキャラクターに、完璧に嵌まる華優希の演技の熱量に圧倒される。軍服姿の少尉「伊集院忍」をたおやかに演じる柚香光の美しさと優しさが、そんな彼女のパワーを温かく包みこみ、二人が醸し出す空気感、多幸感に元気を貰える漫画原作の傑作。自他ともに認めるトップ二人の代表作。宝塚歌劇を未だ観たことが無いという宝塚初心者には打って付けの作品。

2 **アナスタシア** ‘21年 宙組 演出：稲葉太地 主演：真風涼帆、**星風まどか**。20世紀フォックスのアニメ映画「アナスタシア」を基に制作されたブロードウェイミュージカルの宝塚版。映像と舞台のコラボが秀逸。星風まどかのソロ「In My Dreem ♪」の情感のこもった歌声、そして一幕ラスト、真風涼帆と星風まどかのデュエット「Journey to the Past ♪」の伸びやかなメロディーに感動！タイトル・ロールの星風まどかにとっては、この作品が宝塚での代表作と言える。宝塚歌劇になんとか抵抗感のある人には入りやすい作品。

3 **ファントム** ‘19年 雪組 演出：中村一徳 主演：望海風斗、**真彩希帆**。アーサー・コピット脚本の傑作ミュージカル。リチャード・スティルゴー脚本の『オペラ座の怪人』とはまた違ったストーリーに泣ける。トップコンビの歌唱力は宝塚史上最高レベルで聞きごたえ十分。望海風斗はもちろんだが、クリスティーンを演じる真彩希帆のナンバー「Melodie de Paris ♪」、「HOME ♪」、「You Are Music ♪」そして「My True Love ♪」は軽やかで優しく透き通った天使の歌声。歌い手によって、これほどまでに作品の完成度が違ってくるのかと驚かされる。’04年、和央ようかと花總まりによる初演以降、’06年に春野寿美礼と桜乃彩音、’11年に蘭寿とむと蘭乃はなにより再演。「エリザベート～愛と死の輪舞」と並ぶ宝塚歌劇最高傑作の一つ。宝塚歌劇の枠を超え、誰が観ても納得の傑作！

4 **エリザベート～愛と死の輪舞** ‘96年 雪組 脚本・作詞：ミヒヤエル・クンツェ 音楽・編曲：シルヴェスター・リーヴァイ 潤色・演出：小池修一郎 主演：一路真輝、**花總まり**。記念すべき日本初演。楽曲がとにかく素晴らしく、唯一無二の世界観に圧倒される。花總まり、白城あやか、大鳥れい、瀬奈じゅん、白羽ゆり、凧七瑠海、蘭乃はな、実咲凜音、愛希れいかなど、歴代エリザベートが歌う「私だけに ♪」の聴き比べで、何度でも楽しめる再演物の代表格。「エリザベート」の申し子、花總まりの原点がここにある。今秋、花組で10度目の再演が行われる。11代目エリザベート・星空美咲の「私だけに ♪」に期待大。

5 **王家に捧ぐ歌～オペラ「アイダ」より** ‘15年 宙組 演出：木村信司 主演：朝夏まなと、**実咲凜音**。ヴェルディのオペラ「アイダ」の宝塚版。豪華絢爛な衣装と舞台装置は圧巻。初演では男役の安蘭けいが演じたアイダを、娘役の実咲凜音が熱演。ラストシーンに胸がつまる... 本格オペラとはまた違った感動が味わえる。新人公演では、入団2年目の星風まどかが2年目とは思えない堂々とした演技でアイダをやり切った。

6 **風と共に去りぬ** ‘94年 月組 脚本・演出：植田紳爾 主演：天海祐希、**麻乃佳世**。「ベルサイユのばら」と共に宝塚を代表する大作ミュージカル。映画との違いとしてスカーレットの分身として彼女の本音を語る「スカーレットII」という役がある。本公演は、スカーレットIを演じる麻乃佳世の演技が素晴らしく、女性の可愛さ、弱さ、愚かさ、そして逞しさを見事表現している。スカーレットII役の真琴つばさとの掛け合いも面白い。初演のスカーレットI役は順みつき、その後、遙くらら、汀夏子、安奈淳、舞小雪、神奈美帆、麻乃佳世、一路真輝、真琴つばさ、愛華みれ、香寿たつき、星奈優里、朝海ひかる、瀬奈じゅん、

花總まり、朝夏まなと、七海ひろき、龍真咲、礼真琴と、19人中13人が男役である通り、スカーレットIが娘役に配役されること自体めずらしいこと（※波線が娘役）。

7 **ロミオとジュリエット** ‘21年 星組 潤色：小池修一郎 主演：礼真琴、舞空瞳。言わずと知れたロミオとジュリエットの美しくも儂い究極の愛を、宝塚音楽学校首席コンビの礼真琴と舞空瞳が初々しくピュアに演じ切った名作。名曲「エメ♪」は感動的。ラストのデュエットダンスの技術力の高さは圧巻。礼真琴と舞空瞳が放つ無垢で純粋なオーラがロミジュリの世界観にぴったり嵌まる。

8 **ベルサイユのばら～フェルゼンとマリー・アントワネット編** ‘15年 花組 脚本・演出：植田紳爾 演出：谷正純 主演：明日海りお、花乃まりあ。本公演は第二回台湾公演として上演されたが、とにかく現地観客の盛り上がりが凄く、併演されたショー「宝塚幻想曲」の熱気はまるで夏フェスのよう。芝居ではフェルゼン役の明日海りおはもちろんだが、オスカル役の柚香光、そして、なんといってもマリー・アントワネット役の花乃まりあの熱演が胸を打つ。ラスト、監獄でのメルシー伯爵、そしてフェルゼンとの再会のシーンは涙なくしては観られない。宝塚歌劇を代表する作品であり、「オスカル編」や「オスカルとアンドレ編」、外伝として「ジェローデル編」や「ベルナール編」など、再演・外伝の最も多いシリーズであり、「ベルサイユのばらを観ずして宝塚を観たというなかれ」と言われるほど、宝塚歌劇・唯一無二の作品群である。

9 **凍てついた明日～ボニー&クライド** ‘98年 雪組 演出：荻田浩一 主演：香寿たつき、月影瞳。映画「俺たちに明日は無い」の宝塚版。クライド・バロウの男臭さを存分に発揮する香寿たつきと対等に渡り合う、ボニー・パーカー役の月影瞳のクールで熱い演技に注目。安蘭けい、そして矢代鴻が歌う「Blues Requiem ♪」が悲しく心に響く。脚本・演出・楽曲そして演技と歌唱が高次元で結実した傑作。

10 **ME AND MY GIRL～ミーアンドマイガール** ‘08年 月組 脚色：小原弘稔 脚色・演出：三木章夫 主演：瀬奈じゅん、彩乃かなみ。「思わぬ相続財産が転がり込んできたとき貴方なら財産を選ぶ？それとも彼女を選ぶ？」。ノリのいい楽曲に心躍るロマンチックなラブコメディ。瀬奈じゅん、彩乃かなみ、霧矢大夢、出雲綾など歌うまさんがそろい踏みで耳が心地良い。サリー役は初演のこだま愛に始まり、麻乃佳世、風花舞、彩乃かなみ、桜乃彩音、愛希れいか、花乃まりあ、そして舞空瞳へと受け継がれてきた。舞空瞳が「長年憧れてきた役で、この役ができたことで退団を決意した」と言うほど、娘役にとっては垂涎の人気役。

11 **激情～ホセとカルメン** ‘99年 宙組 脚本：柴田侑宏 演出：謝珠栄 主演：姿月あさと、花總まり。プロスペル・メリメ原作の「カルメン」より。芸術祭優秀賞受賞作品。人は何のために生きるのかというテーマをホセとカルメンの激しくも悲しい愛で芸術的に描き切った傑作。カルメン役の花總の演技が凄い。この初演以降のカルメン役は夢咲ねね、愛希れいか、星空美咲。

12 **星逢一夜*** ‘15年 雪組 演出：上田久美子 主演：早霧せいな、咲妃みゆ、望海風斗。藩主の子息・晴興、身分なき娘・泉、そして幼馴染の源太の、哀しくも切ない恋心と友情を抒情たっぷりに描き出した和物の傑作。泉を演じる咲妃みゆの出番はそれほど多くないが、「星観の櫓」での晴興と泉のラストシーンがあまりにも印象的で、トップ二人の迫真の演技に涙腺が決壊した。新人公演での月城かなとと、彩みちるの演技もまた素晴らしい。

13 **忘れじの歌*** ‘82年 星組 作：白井鐵造 演出：大関弘政 主演：峰さを理、秋篠美帆。初演は1938年だが、人間の普遍的な愛に光を当てたという点でその古さを感じさせない。画家であるダルメンを愛しているのに世間の噂に惑わされ、ダルメンのプロポーズを受け入れられなかったジェーンが、戦争で失明したダルメンの看病のため、看護婦に成

りすまし静養先を訪れる。果たして二人の愛に光は差し込むのだろうか。峰さを理と秋篠美帆ががっぷり四つに組んだ熱い芝居に心震える。

14 **国境のない地図*** '95年 星組 作・演出：植田紳爾 主演：麻路さき、**白城あやか**。「ベルリンの壁崩壊」をテーマにした壮大な歴史ヒューマンドラマ。脚本が秀逸で最後の最後までストーリー展開にぐいぐいと引き込まれ、ラストシーンでは涙を禁じ得ない傑作。双子のベロニカとザビーネを演じ分ける白城あやかの表情、視線、台詞回しに注目。

15 **今夜、ロマンス劇場で** '22年 月組 演出：小柳奈穂子 主演：月城かなと、**海乃美月**。綾瀬はるか主演映画の宝塚版。助監督の青年と映画から飛び出して来たお姫様とのロマンチックでヒューマニクなラブファンタジー。ラストシーンで映像と実際の舞台が融合していく演出が秀逸。感動的な主題歌と相まって、映画同様、後半は、涙なくしては観られない感動の名作。綾瀬はるかが演じて見せた「美雪」のマイペースでお転婆でちょっと狂暴な女王様キャラに海乃美月がどれだけ迫れるかが見もの。

16 **戦争と平和** '88年 星組 演出：植田紳爾 主演：日向薫、**南風まい**。文豪トルストイの長編小説を舞台化。ロシアのナポレオン戦争を縦軸に、うら若き女性ナターシャと彼女を愛する青年貴族たちの生き様を通して、人間の弱さ、愚かさ、そしてその先にある成長と再生を深く掘り下げた群像劇。これが退団公演となった南風まいの神々しくも美しき落涙にもらい泣きを禁じえず。フィナーレは銀橋でのロケットに始まり、ロシア民謡のメドレーが芝居の余韻を華やかに再生する。

17 **マスカレード・ホテル** '20年 花組 演出：谷正純 主演：瀬戸かずや、**朝月希和**。東野圭吾原作の本格ミステリーの舞台化。複雑なミステリーのプロットを、舞台という制限の中にもうまく落とし込み、観客にわかりやすく提示。映画では長澤まさみが演じた山岸尚美役を朝月希和が見事に再現。その活舌の良さと、これぞホテルマンと思わせる的確な演技に脱帽。また、音くり寿の憑依型演技は「花より男子」の三条桜子に続き今回も炸裂。ラストシーンはさすが宝塚演出。山岸尚美の「あの時、私がバスルームに監禁されているとどうしてわかったのですか？」という質問に対する新田浩介の答えがいかして、「映画版」には無い萌えポイント！瀬戸かずやを中心とした、7分に及ぶ一曲通しのフィナーレダンスも熱い。

18 **銀ちゃんの恋** '08年 花組 演出：石田昌也 主演：大空祐飛、**野々すみ花**、華形ひかる。つかこうへい作「蒲田行進曲」を舞台化。傍若無人な銀四郎に翻弄される小夏やヤスの生き様を鮮烈に描いた痛快人情活劇。主役は銀ちゃんだが、命がけで階段落ちに挑むヤスや、銀ちゃんとの子供をヤスと結婚してでも産み育てようとする小夏の覚悟と生きざまが愛おしく、脇役二人が光り輝く作品。初演は'96年に月組の久世星佳・風花舞で、'21年には花組の水美舞斗・星空美咲で再々された。

19 **小さな花がひらいた～山本周五郎「ちいさこべ」より** '11年 花組 脚本：柴田侖宏 演出：中村暁 主演：蘭寿とむ、**蘭乃はな**。大工の若棟梁・茂次の江戸っ子気質の歯切れの良さと、茂次に淡い恋心を抱くおりつの優しさと健気さ、そして子供たちが歌う「もう涙とはおさらばさ♪」にもう涙が止まらない。一見厳しそうだが実はあったかい心根を持った茂次の人となりに説得力を持たせる蘭寿とむの演技、そして茂次を密かに思うおりつの微妙な心の動きを細やかに演じる蘭乃はなの好演が光る。

20 **金色の砂漠*** '16年 花組 演出：上田久美子 主演：明日海りお、**花乃まりあ**。砂漠の王国を舞台にした愛憎劇。この王国では、王女が産まれると幼い男子を専属の奴隷として傳かせ、生涯に渡り身の回りの世話をさせるしきたりがある。そんな王女タルハーミネと奴隷ギイの関係は、二人が成長するにつれ屈折した感情のもつれとなって愛と憎しみが錯綜する。馬車に乗り込むための踏台になったトップスター明日海りおをトップ娘役の花乃

まりあが踏んづけるといふ宝塚的には衝撃的な演出にチャレンジした点が興味深い。

2 1 殉情～谷崎潤一郎作「春琴抄」より '22年 花組 脚本：石田昌也 演出：竹田悠一郎 主演：一ノ瀬航季・美羽愛、帆純まひろ・朝葉ことのW主演。'02年に絵麻緒ゆう、紺野まひる、'08年には早霧せいな・和音美桜、漣水ゆうや・すみれ乃麗のW主演で上演。薬問屋の盲目の娘・春琴を献身的に世話する奉公人・佐助の無償の愛、究極の愛を劇的に描き、谷崎潤一郎の名作「春琴抄」の世界観を見事に舞台化している。

2 2 明智小五郎の事件簿～黒蜥蜴 '07年 花組 演出：木村信司 主演：春野寿美礼、桜乃彩音。江戸川乱歩原作の「黒蜥蜴」を原案に、トップ二人ががっぷり四つに組んだサスペンス・ミステリー。春野寿美礼演じる「明智小五郎」と、桜乃彩音演じる「黒蜥蜴」のプライドを賭けた頭脳戦は、ピーンと張りつめた緊張感の中、二転三転、目まぐるしく展開し、最後に意外な結末を迎える。春野寿美礼の重厚な歌、そしてタイトル・ロール黒蜥蜴を演じる桜乃彩音の妖艶な佇まいが古典的ミステリーの世界観を見事に具現化している。今夏、宙組で再演予定。タイトルも「黒蜥蜴」に変わり、女賊「黒蜥蜴」を春乃さくらがどう演じるか大いに期待！

2 3 愛の不時着 '24年 雪組 潤色・演出：中村一徳 主演：朝美絢、夢白あや。'20年に韓国のみならず世界中で大ヒットした韓ドラが、'22年に韓国でミュージカル化され、それが今回、宝塚の舞台に。北朝鮮のエリート将校リ・ジョンヒョクと、パラグライダーが竜巻に巻き込まれ北朝鮮に不時着してしまった韓国の財閥令嬢ユン・セリの、過酷な北朝鮮脱出劇と壮大なラブストーリーが宝塚風に描かれる。ドラマではソン・イェジンが演じた「ユン・セリ」の令嬢キャラが夢白あやの貫禄ある演技とピタリと嵌まり、「ユン・セリ」の魅力を余すことなく表現して見せた。

2 4 心中・恋の大和路～近松門左衛門「冥途の飛脚」より '14年 雪組 脚本：菅沼潤 演出：谷正純 主演：壮一帆、愛加あゆ。身の程も弁えず遊女との恋に溺れ沈む忠兵衛と、そんな男に一縷の希望を託す遊女梅川の悲しくも切ない恋の道行きを切々と描いた心中物の名作。娘役が演じる太夫や遊女たちの着物姿の色香はさすが。忠兵衛が父・孫右衛門と再会する場面での、孫右衛門の遊女に対する恨み節がやるせなく居た堪れない。最後は、その表情に死相までも浮かび上がらせるトップ二人の迫真の演技に固唾を飲む。

2 5 再会* '99年 雪組 演出：石田昌也 主演：轟悠、月影瞳。売れない小説家でプレイボーイのジェラルドはホテル経営者の父から「ある女性をその気にさせ、見事振って、それを小説に書くことが、ホテル経営者の跡継ぎになる条件だ」とちょっと風変わりな指令を受ける。彼はその目的を果たすため、図書館に勤めるサンドリーヌという牛乳瓶の底のような眼鏡を掛けた「いけない」女性を誘い出す。簡単に落とせるものと高を括り、「プリティ・ウーマン」よろしく、彼女をおしゃれな女性に変身させデートをしているうちに、その気にさせるはずの自分がいつの間にか逆に彼女に惚れてしまう... 果たして二人の恋の行方と跡継ぎ問題はどうなるのか？ いろんな顔を持つ女性を演じ分ける月影瞳が魅力的。

2 6 GUYS AND DOLLS '25年 月組 演出：稲葉太地 主演：鳳月杏、天紫珠李、彩みちる。ブロードウェイでロングランヒットした傑作ミュージカルの宝塚版。宝塚では、'84年に大地真央と黒木瞳、'02年に紫吹淳と映美くらら、'15年に北翔海莉と妃海風で上演。この作品はトップ娘役が演じるサラ・ブラウンの活躍もさることながら、それと同等かそれ以上に、ミス・アデレイドという役にスポットが当たるので、男役が配役されることも多いが、今回が退団公演となる娘役・彩みちるが男役・彩海せらとのWキャストとして配役され、彼女の宝塚人生の集大成となる素晴らしい歌と演技を披露した。

2 7 夜明けの序曲* '82年 花組 作・演出：植田紳爾・酒井澄夫 主演：松あきら、若葉ひろみ。芸術祭大賞受賞作。新派劇の創始者・川上音二郎と、「マダム貞奴」として海

外で名を馳せた妻・貞の波乱万丈の人生を劇的に描いた名作。女性が舞台に立てなかった時代に、女優第1号として女優の夜明けを切り開いた「貞奴」とオーバーラップするような堂々たる演技を見せた若葉ひろみの女優魂に感動。

28 **カナリア*** '01年 花組 作・演出：正塚晴彦 主演：匠ひびき、大鳥れい。悪魔学校の卒業試験は、人間界に舞い降り、最初に出会った人間を不幸のどん底に突き落とすこと。しかし、卒業試験に挑むヴィムが最初に出会った人間は、すでに不幸を絵に描いたような女アジャーニだった。果たしてヴィムは制限時間内にアジャーニをさらなる不幸に突き落とすことができるのか。小劇場シアター・ドラマシティでの公演ながら、春野寿美礼、瀬奈じゅん、蘭寿とむ、遠野あすか、舞風りらなど将来のトップスターが集結した最高のファンタジック・コメディ。特に大鳥れいの歌や芝居が絶品で、彼女が主人公と言っても過言ではないほどの活躍ぶりを見せてくれる。

29 **I AM FROM AUSTRIA～故郷は甘き調べ** '19年 月組 潤色・演出：齋藤吉正 主演：珠城りょう、美園さくら。お忍びでオーストリアにやって来たハリウッドの人気女優エマ・カーターと、その宿泊先「ホテル・エドラー」の御曹司ジョージ・エドラーとの等身大の恋をコメディタッチで描いたウィーン・ミュージカルの名作。ラインハルト・フェンドリッヒが紡ぐ名曲の数々を珠城りょうをはじめとした月組生が珠玉のミュージカルに仕上げた。特にエマ・カーターを演じた美園さくらの歌声が印象的で、力強い地声が劇場中に響き渡った。

30 **愛聖女（サントダムール）～Sainte d'Amour*** '18年 月組 演出：齋藤吉正 主演：愛希れいか。娘役が輝く作品と言えばまさにこれでしょう！娘役が主演を務めるのは月影瞳の「Over The Moon」以来17年ぶりの快挙。愛希れいか演じるジャンヌ・ダルクが現代のフランスにタイムスリップして、時代のギャップに戸惑いながらも、人々との交流を通して友情と信頼を育んでいくショー・ミュージカル。「プリキユア」かと思紛うばかりのキューティファッションに身を包む愛希れいかのビジュアルに注目！天紫珠李は主演の愛希れいかに対するトップ娘役的役割に抜擢され歌に芝居に大活躍。